

第2学年 道徳科学習指導案

令和3年1月23日（土）4校時

第4学年 1組遠藤竜司 2組藺田直子 3組五十嵐和加 4組佐藤正信

1 主題名【 希望と勇気、努力と強い意志 】

2 教材名 「こうさとびができた 」

3 ねらい 目標に向かって、がんばろうとする実践意欲と態度を育てる。

4 展 開

	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点
導 入	<p>1 児童がチャレンジしてみたいことを改めて想起させる。 ○チャレンジしてみたいことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二重跳び。 ・サッカーのリフティング。 ・ピアノの新しい曲。 ・料理のお手伝い。 ・よく飛ぶ飛行機を折り紙で折りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が「わたし」と自分とを重ね合わせながら考えることで、自分のこととして考えながら授業に取り組める用意する。
展 開	<p>2 教材「こうさとびができた」を聞いて話し合う。 ○「わたし」は、どんなことを考えながら、家でも縄跳びの練習をしていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになりたい。 ・2, 3回はとべるから、できるはず。 ・なんどやってもできないよ。 ・どうしても、ひっかかっちゃう。 ・やっぱり、できないのかな。 <p>◎「やった。」と心の中で叫んだ「わたし」はどんなことを思ったでしょう。</p> <p><自分自身のこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっとなべた！ ・跳べてうれしい。 ・がんばってよかった。 ・せいこうした。 <p><ななほさんに対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ななほさんありがとう。 ・ななほさんに、おれいを言おう。 <p><価値について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・諦めずにがんばってよかった ・がんばった分だけ、うれしさも大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な交差跳びができず、学校だけでなく家においても「なんども」「なんども」練習する「わたし」の気持ちを考えさせる ・「わたし」のさまざまな思いに気付かせる。 ・努力が実った時の「わたし」の気持ちを考えさせる。 ・必要に応じて補助発問をし、理解を深める。
終 末	<p>3 自分の生活を振り返る。 ○「わたし」のように、目標に向かってがんばったことはありますか。それをやり抜いたとき、どんな気持ちでしたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」と重ね合わせて、自分が目標に向かって努力したことや、やり遂げた時の気持ちについて考えられるようにする。

5 評価

苦手な交差跳びに懸命に取り組む「わたし」の姿を通して、目標に向かってがんばると、どんな気持ちになるか考えさせ、つらいことや苦しいことがあってもくじけずに、自分のやるべき目標に向かってがんばることの意味について考えることができたか。

○「こうさとびができた」

○ねらい

今回の2年生の授業では、目標に向かって、つらいことや苦しいことがあってもがんばろうとする心情を育てることをねらいとしました。

○手立て

「こうさとびができた」の資料は、6年生を送る会で、リズム縄跳びをすることになった主人公が、上級生に教わりながら、学校でも家でも練習し、本番で交差跳びを成功させるという最後まで諦めず目標を達成するお話です。

主人公の「わたし」と自分とを重ね合わせながら考えることで、自分のこととして捉え、目標に向かって頑張った経験やその時のさまざまな思い、また、これからがんばりたいことなどについて話し合い、自分を見つめます。

また、目標に向かってがんばることの大変さや、やりぬいたときの達成感などのさまざまな面から、くじけずにがんばることの意味について考えさせることにより、より多面的に考えられるようにします。

○児童の様子

授業の始めに、「チャレンジしてみたいことはありますか。」と聞いたときに、半分位の児童が手を挙げ発言しました。最初は、思いつかなかった児童も、友達の発言を聞き、「自分もそうだ。」と共感していました。

『「わたし」は、どんなことを考えながら、家でも縄跳びの練習をしていたのでしょうか。』と聞いたときは、前向きに取り組んでいる主人公の気持ちや後ろ向きになっている主人公の気持ちと両方の考えが出てきて、主人公の葛藤する気持ちが、児童にも理解できたようです。

『「やった。」と心の中で叫んだ「わたし」はどんなことを思ったでしょう。』と聞いたときは、たくさんの児童の手が上がりました。「がんばってよかった。」など、自分自身のことの見解が大半でしたが、「ななほさんありがとう。」や「がんばったから、その分うれしい。」など、他の道徳的価値観の見解も出て、多面的にくじけずにがんばることの意味を考えることができました。

○写真

